

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600070		
法人名	医療法人 田中会		
事業所名	グループホーム陣内		
所在地	熊本県菊池郡大津町陣内1167-5		
自己評価作成日	平成25年12月25日	評価結果市町村受理日	平成26年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちは入居者、ご家族から「やっぱりここを選んでよかった」なるほど・・・納得「ずっとここで暮らしたい」と云われるようなホーム作りを目指しています。その為に入居者の方が健やかで安全に安心して暮らせる環境作りを心がけています。スタッフは出勤したら必ず入居者一人ひとりに声かけしながら、握手したり、スキンシップをとったりして様子や要望など伺っています。目につく場所に当日の勤務者の写真、行事、クリニック受診、入浴者等掲示することで安心感を持っていただくよう工夫しています。また併設に大津じんないクリニック、介護老人保健施設「おおつかの郷」があり、医師の診療、夜間のオンコール体制など充実しています。スタッフも毎日入居者一人ひとりの笑顔を引き出せるようお互い切磋琢磨しながら自己研鑽に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成26年1月21日		

開所から2年に満たないホームであるが、長年に亘る法人と地域との関係性が基盤となり「歴史ある町や地域を人々と共に大切にしたい」という思いとなって地域密着型事業所としての運営を展開している。「予防から看取りまで」を支える医療と介護の複合施設は、短期間の関わりに留まらず、その人の最後を見届ける体制となってホームでの看取り支援に継承されている。昨年は対象となられた方の穏やかな終末を支援し、現在でも家族との交流が続いている。昔ながらの祭りや風習が残る地域性はお隣さん・ご近所さんの繋がりが高く、高齢者による児童の見守り(旗振り)やボランティアが盛んであり、「地区の集い」では現在、防災マップが製作中であるなど地域をあげてわが町・わが地区作りを進めている。ホームも地域の一員として一連の行事に関わり、家族介護教室では認知症啓発に尽力している。新年度に向け職員の新たな構想が確認され、入居者・家族への支援が更に充実されていくことが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げホーム内の分かりやすい所に掲示している。また一人ひとりが携帯し、いつでも確認できるようにしている。職員は、理念に沿ったケアが行えるよう努めている。	法人の基本理念である「一人ひとりに最後まで寄り添うケア」を原点として、開所時に全職員で介護理念を設定しケアの規範としてスタートを切っている。職員は理念を携帯し何時でも初心に帰る機会を持っている。人に関する仕事だからこそ接遇が基本となるとして法人全体で力を注いでおり、地域へ向けて様々な場面でホームの思いを啓発している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的(1回/2ヶ月)に開催される「中陣内地域福祉定例会」に参加しホームの様子を伝えたり、意見の交換を行っている。また地域の運動会、ミニバレーボール大会、地域の祭りへの参加も行い交流を深めている。「みんなの家」の子供たちの訪問もあり入居者の方の笑顔も多く見られる。	昔ながらの近所付き合いが残る地域性は、近隣者がホームの勝手口から野菜や漬物などを差し入れたり、保育園児が歩いて訪れ入居者の生活に張りや喜びをもたらすなど、日常的な交流が行われている。「地区の集い」が地域交流の場として運営に活かされ、情報の収集や意見交換、食事会の開催により人々と身近に関り、地域の一員としての存在を確固たるものにしていく。	恒例となった保育園児の来訪は入居者が心待ちにされており、今後は相互交流に繋がる取り組みを検討したいとしている。展開が期待される場所である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域との座談会や運営推進会議を通じて認知症の人の理解や支援の方法を伝えている。 ・家族介護教室開催時に認知症についてのレクチャーも行っている。 今後の取り組みとして定期的な勉強会の機会も検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方や行政の方の参加をいただき、ホームの現況報告及び活動報告を行っている。 ・参加者の方の意見や問い合わせ、家族の方からの意向も伺っている。 ・普段の活動報告の他にもホームでの取り組みなどの報告も行っている。 	<p>開所以来定例化した会議には行政や地域の代表者・家族代表が参加している。併設の認知症サービスとの合同開催となっており、互いの取り組みを発信しながら参加者の意見の引き出しに努力している。「地区の集い」での情報はそのまま推進会議に反映し、緊急時や災害時に開けるAEDの貸し出しや地域住民の一時避難所としての打診に快く応じ積極的に協力を申し出るなど地域貢献にも寄与している。</p>	<p>地区の集いと推進会議が相乗効果となりホームの運営に多いに活かされており、今後も代表者以外の家族や交流のある保育園などへ参加を依頼することで意見の拡充を図り、開示方法として家族会などで会議内容を報告し、共有されることが望まれる。</p>
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞配布や運営推進会議などでホームの実情やサービスの取組みを伝えている。 ・介護保険に関して不明な点は大津町役場の担当者に相談したり、PM2.5やインフルエンザ・ノロウイルスの情報をパソコンのメールを通して把握したりして連携を図っている。 	<p>推進会議では行政担当者に2ヶ月毎にホームの現状を伝え理解を得ている。管理者は更新手続きや事故報告などで役所を訪れ、不明な点や相談事に快く応じてもらいながら友好的な関係を築いている。</p>	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束に関する勉強会を行い職員全体の理解を深めている。玄関をはじめすべての出入口は開放しており身体拘束をしないことを前提に動いている。 	<p>法人の各委員会に担当職員が1名ずつ所属し、全体での研修内容をホームに持ち帰り共有している。ホーム独自の学習会では月毎に議題を決め、身体拘束への認識を更に深めている。法人全体で取り組んでいる接遇マナーの実践には、副施設長のミニ講話により言葉の選択やかけ方について学んでおり、玄関手前で家族を待たれる姿にさり気無く寄り添うなど入居者の気持ちを押し量りながら対応している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待については勉強会の機会を持ち、行動だけでなく言葉遣いによる虐待にも十分注意を払うように務めている。 ・眠剤を使用することによりこちらに都合で眠らせるのではなく、自然な眠りを誘うように昼間の活動を活発にしたり、外に出たりするように心がけている。 ・睡眠状態の観察により眠剤が蓄積していると思われる方は、かかりつけのクリニックのDrに相談して対処している。 ・どんな場面でも虐待に繋がることのないように職員同士が注意し合える関係づくりを目指している。 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護及び成年後見制度についての必要性と仕組みについて話し合い、勉強・理解の機会を設けている。 ・今後、職員全員が家族からの質問・相談にも答えられるよう勉強会の機会を増やす計画である。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前の事前面談や重要事項の説明を密に行うことで本人様・ご家族様の理解・納得を図り、不安や疑問のない状態で入居いただいている。 		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見箱を設置し、ご家族が意見や要望を伝えやすいように工夫している。 ・ご指摘いただいたことや要望のあったことについては検討し運営に反映させている。 ・面会時にもご家族と話す時間を作り意見や要望を聞き入れている。 	<p>入居者の状態を把握したうえで、難聴の方へは近くに寄り添い話をしたり、文字板を使い思いを聞き取るなど個別に会話する時間を大切にしている。食事への要望が多いことから職員は「何が食べたいですか？」など選択肢を投げかけ、たこ焼き会などが実現している。</p>	<p>この一年家族からの苦情はほとんど上がっておらず、日常生活の細やかな要望にはその都度対応している。今後は重要事項などに家族が意見、苦情を申し出る窓口として公的機関の記載をお願いしたい。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議規約に準じて毎月職員会議を行い、職員の意見や提案を聞いている。 ・全員で考え改善できるものは直ぐ実行している。 ・重要な内容によっては Medikae センター会議で協議し、反映させている。 ・ Medikae センター会議は、毎月第一週月曜日に開催している。 	毎朝の申し送りを徹底し、夜勤者は日勤帯のリーダーである職員に伝達漏れがないよう連携を図っている。職員間のコミュニケーションが普段から何でもいえる環境を作り、重要な案件は月の会議やセンター会議で検討している。入浴時の職員配置などに改善が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの勤務状況については、勤務表で状況把握されている。 ・勤務希望も月3日間まで受け入れられている。 ・時間外勤務については超過勤務の支給がある(上長の許可が必要) ・平成25年10月1日から時間給が取得出来るようになった。 ・勤務評価シートを取り入れることで本人の努力・頑張った点、反省など自己評価、上司の一次、二次評価を行い、評価によっては給与、賞与に反映されており、向上心を持って働けるような環境が整備されている。 		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・月に一度は各担当者がテーマによって勉強会を開催することで、質の向上に努めている。各職員はそれによって知識や仕事に対する意欲を高めることが出来るようになった。 ・研修会参加者による復講で当人を始めとして職員の知識を深める場を設けている。 ・併設の介護老人保健施設「おおつかの郷」で実施される定期的な勉強会に参加して知識及び交流を深めている。 ・介護支援専門員資格取得のために、受験対策講座が設けられている。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より熊本県グループホーム連絡会に入会。その中で研修会参加を積極的に行い同業者との交流を持つ機会が保たれている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前に他の施設職員と事前調査をお行い、本人・家族についての綿密な情報収集を行っている。 ・入居時事前に得た情報をもとに、本人、家族に確認し、本人家族の意向を伺い、安心したホーム生活が出来るよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・これまでの入居者の生活状態を伺い、生活パターンを把握するようにしている。 ・入居される時は全職員でお迎えし、家庭的な雰囲気作りが出来るよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・家族、本人の想い、希望を伺い当ホームで出来る限り支援し、本人の回復又は現状維持に努めている。 ・併設のリハの職員にADLの低下を妨げる様なアドバイスを受けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員が一方向的にケアする立場にならないように、利用者と一緒にお茶を飲んだり、料理の味付けの方法を尋ねたり、漬物の漬け方、大津町の歴史について、「大津音頭」の歌など教えてもらったりしてコミュニケーションをとっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・職員は家族が面会のたびに情報交換を行い情報を共有している。 ・食事が入らない時、ご家族と一緒に外食や、本人の好きなものを持参していただいたり、生活に必要な物品を持参してもらうなど、常に本人とご家族との繋がりを大切にしている。 ・遠方にいる家族にはメールや、手紙、グループホーム広報誌「ぼっぼ通信」で生活状況などお知らせしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・24時間いつでも面会できるように環境を整えている。 ・自分が住んでいた家の訪問や近くのスーパーへの買い物、地元の飴市など、住み慣れた場所を訪ねたり、イベントに参加するなど積極的に行っている。 ・月2回ハツラツ体操に来られる友人が面会に来られた時は、テーブルや椅子、お茶など準備し話しやすい雰囲気作りに努めている。 ・ご近所にお住まいの方が季節ごとにお花や漬物など持参されるので、ご利用者とコミュニケーションが図れるよう配慮している。 	<p>ホームは入居者にとって一番近い存在である家族や関係者、日々を共にする職員との関りを重視し、面会時の環境を整え、その日の出勤職員を毎日紹介する事で安心して過ごしてもらおう工夫をしている。</p> <p>自宅訪問や馴染みの品「化粧品」の購入には一緒に外出し、新聞や書道の継続などこれまでの生活を支えている。電話で家族の声を聞くことで安心される方へは毎日対応し、個別支援に取り組んでいる。</p>	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の時以外は好きな席に座っていただき入居者同士の交流が図れるようにしている。 ・化粧療法や運動療法、ボランティアなどを通してかわり合いが持てるように支援している。 		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・退去された後も当方から様子をうかがったり家族の方が来ホームされやすいように連絡をとりあったりしている。 ・夏祭りなどの行事の際にはボランティアとして参加いただいている。 ・これまで看取りを行った方が一人おられ、ご家族とは今でも良い関係が続いている。 ・将来的にも関わりを継続していくつもりである。 		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の会話の中でさり気なく本人の思いや暮らし方の希望を聞き取るように心がけている。 ・お墓参りや自宅への故郷訪問、買い物外出など体調に合わせて検討し困難な場合にはご家族とも相談し、本人の思いを取り入れることが出来るよう努めている。 	<p>日々の関わりの中から入居者の思いを引き出し、支援に反映させている。職員は会話の中に何処に行きたい、どう過ごしたいなどの具体例を出し、入居者に分かりやすい表現や言葉を選びながら食事や個別外出などの希望を収集し、面会時に家族に提案しながら本人本位に対応している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・基本情報によりこれまでの既往歴や生活歴の情報収集、本人様やご家族様との会話、これまでの利用機関からの情報等により把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日の状態観察、申し送り、ケアノートの活用により現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・3ヶ月ごとのモニタリング時には全スタッフからの情報収集、本人・家族からの要望を伺いケアに活かせるよう取り組んでいる。 ・体調や支援内容に変更があった場合は、ケアノートを用いて周知、意見を求めている。	入居者や家族の意向をもとに担当職員のアセスメントから必要な支援をプランに上げている。作成担当者は入居間もない方への精神面へのフォローや他者との交流を掲げ、定期的な評価で職員の声聞きながら変化があれば新たにプランを立案している。看取り時には専用のプランを作成し職員の細やかな気づきが反映され支援に活かされている。プラン内容は家族へ解りやすい説明が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別ケアノートを活用し、職員間での情報の共有、ケアの実践に努めている。 ・経過記録に日々の様子を残し、情報を取得し介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・その時の状態に応じて受診・往診、本人様の希望による歩行訓練や立ち上がり訓練など行っている。 ・必要時は専門医の受診も出来るよう支援している。 ・フットマッサージの使用により下肢のむくみの軽減にも取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・各行事の際のボランティア参加、防災訓練時の消防署の指導協力、近隣の美容室利用時の協力など得られるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時、専門医の受診も含め、希望されるかかりつけ医の確認をしている。ご家族が専門医へ受診される際に紹介状を希望された際は、大津じんないクリニック医師へ伝え依頼することも出来ることを伝えている。 ・熊本セントラル病院受診時は利用者の方を病院へお連れし、ご家族と待ち合わせや付き添いなど受診の支援を行っている。 	<p>入居時にこれまでのかかりつけ医を継続して支援することを伝えている。現在は緊急時対応の面から全員が法人クリニックを希望し、職員同行による定期受診が行われている。協力医の受診については送迎や医療機関で待ち合わせ、医師に日常の様子を伝えている。総合病院受診の際は、家族の状況によっては臨機応変にホームで対応している。職員の日頃の健康観察により些細なことでも家族に報告することで安心や信頼に繋げている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・出勤時、入居者全員と挨拶・会話を交わすことで変化に気づく。毎日のバイタル測定時、排泄・食事や水分の摂取量の把握、申し送りをし情報を繋いでいる。また、変化時は連携看護師へ報告。ホームで出来る看護処置の実施や介護のケアのアドバイスを受けている。看護師の判断で診察必要と判断した時には、その旨をご家族へ速やかに連絡・報告し希望病院を確認し併設の大津じんないクリニックや熊本セントラル病院、武蔵ヶ丘病院へ受診となる。 ・定期のクリニック受診時、日頃の情報を「クリニック受信情報用紙」に記載している。 ・夜間は隣接の介護老人保健おおつかの郷看護師オンコール体制を取っている。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時、大津じんないクリニックから入院先の病院へ情報提供書を出してもらっている。 ・ホームからは介護サマリーを作成し、入院先の病院で出来るだけ同じケアを受けることで混乱なく過ごすことができ、治療に専念できるよう努めている。 ・入院中の見舞い、その際に可能な限り病院関係者に現状を聞く。またご家族と連絡を取り合うことで状況の把握でホームへ迎え入れる準備を常に行っている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・DNR(終末期の蘇生意思表示記録)にて状態変化時にどこまで望まれるかを把握している。 ・看取りまで望まれる利用者の方(家族)へ、ホームでできるケアや医療の説明をし納得していただいた方に行うこととしている。決して押し付けない、選択出来るようにしている。看取りの同意書を交わし、常に職員が家族の気持ちに沿ったケアが出来るよう話し合いを設けている。(11月、ケースを通した看取りケアの研究発表) 	今年度経験のない職員へもメンタル面に配慮し、最終場面に関わることの大切さを伝えながら一例の看取りが行われている。「最後まで口からの食事を食べさせて欲しい」との要望を受け、栄養部や法人看護師との連携や家族の宿泊支援はホームにとって大きな支えとなったようだ。今回の取り組みで、日頃から交流のある保育園児が来訪時にその方の居室に入り、手を握るなど看取り支援がより温かなものとなっている。	今回の支援を通し家族と職員の関係性も深まり、職員自身も成長できたとホーム長は語っている。今後も職員のチームワークにより入居者・家族の要望に沿って最終の支援に取り組まれることに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルの設置。 ・マニュアルに沿った対応、電話連絡までを実践訓練としている。 ・AED操作ではトレーナーによる指導で実践訓練を取り入れている。 		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回(春・秋)、法人による災害訓練の実施がされ、ホームでは利用者も参加した訓練を実施している。 ・地域との協力体制として、運営推進会議で防災マップ作りが話し合われている最中である。 	年二回入居者も参加した訓練を行い、反省点を全職員で検討し次回に活かしている。また、業務日誌には消火器・電化製品・施錠などの確認項目を設け、職員の意識付けに繋げる他、コンセントや消火器の位置確認も行っている。備蓄については栄養部で三日分の食品を用意している。設置されているAEDについては貸出しも可能である。	法人全体で安全管理に努めており、今後は災害訓練への地域住民への呼びかけや自然災害についての机上訓練、ホーム周りの安全確認が必要と思われる。また、地域住民との共同制作による地域防災マップの完成にも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者に声掛けする時は必ず苗字や名前にさん付けで呼ぶように心がけている。 ・沢山の人の前で個人的なことは言わないように心がけている。 ・排泄や入浴時の声掛けは耳元でささやく、恥ずかしい部分を見られない様にと、お一人おひとりのプライバシーを損なわないように配慮している。 	入居者の尊厳に配慮し日常の会話の中に方言を交えることもあるが、失礼にならない対応に努めている。呼称は個々に応じ苗字や名前で対応し、難聴の方へは耳元で語りかけたり、自然な誘導で排泄支援を行っている。昼食時法人職員がデッキから入り、入居者に声をかけ自然に弾む会話の様子に、法人全体で入居者を見守っている事が感じ取れる場面であった。また、ホーム長も日頃から入居者へ感謝を忘れずケアにあたる事を伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴、排泄、などの声掛けは利用者にあった言葉を選んで、「どうなさいますか」と自分で決めていただくように心がけている。 ・散歩等ご本人が希望する行動については、意志を尊重し、自分の意志を表出できないご利用者には声掛けに配慮しながら、希望が叶うような生活を支援している。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の流れに沿った生活を支援しているが、決して急がすこと無く、お一人おひとり尋ねながらその人に合ったペースで過ごしていただくように心がけている。 ・自立度の高いご利用者には自分の時間をお好きな様に過ごしていただく事を優先している。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・起床時の整容や更衣はご本人の意向に添えるよう支援している。 ・ご本人やご家族が希望される時は近くの美容室へお連れしている。男性入居者にはご本人の希望にて職員が散髪している。 ・外出時は自分でお気に入りの洋服を職員と共に選んでもらっている。 ・月2回の化粧療法の時間は、アドバイスを受けながら口紅やアイシャドウの色を選んだりして、個性を出している。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・能力に応じておやつを一緒に作ったり、テーブル拭き、ご飯をついだり、家庭菜園でとれた旬の野菜で料理をしてもらったりしている。 ・天気が良い日はテラスでランチを楽しんだり、誕生日には手作りのケーキで皆でお祝いしている。 	<p>ホームで一番採光のよいリビング食堂で入居者は職員と一緒に、季節感のある食事を個々に応じた食事形態で楽しんでいる。法人の栄養士が作成した献立を使用し、朝はホームで、昼・夜は米飯以外は法人厨房で調理されている。時にはお弁当を持って外出したり、デッキでのランチ、ハンバーガーの購入や、ホットプレートを使用しおやつや副食(餃子・たこやき等)作りに取り組んでいる。入居者の家族の指導により完成したらつきょう漬けも一品として食卓に登場している。</p>	<p>職員も見守りや介助のもと一緒に食事を摂っており、メニューによってはエプロンが不要の場合もあると思われる。状況に応じたエプロンの使用について検討頂きたい。また、今後はホーム内で入居者も参加した調理ができないか、職員のアイデアも出されており実現に期待したい。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・1日の食事量、水分量は個人ケアチェック表で管理して、食事摂取量が少ない方には管理栄養士と相談しながら、その方に合わせた食事形態や栄養補助食品を提供している。嚥下困難な方にはトロミや、ペースト食、摂取量が少ない方にはハーフ食＋高カロリー栄養補助食品などの対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎日、毎食後本人に合わせた口腔ケアを行っている。口腔内の状態によっては歯科医師の往診、希望者には歯科衛生士による口腔ケアマッサージを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表を記入する事で排泄パターンを把握し、早めの誘導、声かけトイレでの排泄を心がけている。 ・夜間オムツの方は日中はリハビリパンツへ、夜間リハビリパンツの方は日中は布パンツにて対応している。	排泄チェック表により個々のパターンを把握し、日中は声かけ・誘導によりトイレでの排泄を支援している。排泄用品も布やリハビリパンツ、尿とりの使用など季節や状況に応じて組み合わせ、家族が面会を兼ね排泄用品を持参された際は情報を共有しプラン作成に活かしている。夜間のみ使用される方のポータブルトイレは洗浄を徹底し、日中は布で覆うなどプライバシーにも配慮し対応している。三ヶ所のトイレは、気持ちよく利用できるよう清潔に管理されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分の摂取量の把握に努めており、個々の好みに合わせて、ORSゼリー、経口補水液、麦茶、コーヒーで対応している。 ・毎日排便の確認を行い、いも類や野菜の摂取に心がけたり、腹部マッサージ等実施している。 ・散歩や簡単な体操など運動の声かけもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴希望者はいつでも受け入れ出来る体制を整えている。 ・その日の入浴予定者がわかるように掲示しているが、入りたくない方の意向も聞いている。 ・声かけにて着替えの準備を一緒に行い本人様の意向に沿った服を着て頂いている。 ・お茶、入浴剤、ゆず湯など変化をつけ入浴を楽しんでいただいたり、個々に合わせ、普通浴・機械浴・シャワー浴・足浴等にて対応している。 	入浴への希望を確認しながら、少なくとも週2回の支援を行っている。浴室は代表者の明るく・温かい雰囲気の中で入浴を楽しんでもらいたいという思いからピンク色など淡い色でまとめられている。また、身体状況に応じ機械浴も設置され、湯船に浸かってひと時を楽しめる環境である。入浴剤の使用や季節の柚子湯支援の他、ホームの特徴は地元の茶葉を使った入浴支援である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間の睡眠状態の把握に努め、睡眠不足気味の方には昼寝の声かけ、夜間寝付きの悪かった方には遅めの起床等状況に合わせた対応をこころがけている。 ・昼食後にはゆっくりした時間を設けソファや居室などで休んでいただけるように配慮している。 ・天気の良い日は布団干しやシーツの洗濯を行い、気持ちよく眠っていただくようにしている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・大津じんないクリニック受診時は、クリニック受信情報用紙に変更した内服などを医師又は看護師が記載している。その情報用紙は利用者個人のファイルに綴じ込んでいる。 ・出された薬剤情報にも変更のあった薬に蛍光マーカーでラインを引き、わかるようにしている。 ・いつでも誰でも薬の情報がわかるようにパソコンのデスクトップ上に「ハイパー薬事典」を表示し、検索できるようにしている。 ・服用介助時は、与薬ミスもないように利用者の薬袋の名前を見せて、本人より名前を言ってもらっている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・季節の野菜を使った料理やおやつ作り、観月会や誕生会、中庭でのランチや茶話会等を楽しんでいただいている。 ・庭先の畑にはゴーヤ、いちご、トマト、など栽培して収穫している。 ・日常での家事(料理・洗濯物干し・洗濯物たたみ・台拭き)等役割を持っていただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・敷地内の紫陽花・ふきのとう・さくら・コスモスの花見・菊人形展などで季節を肌で感じていただけるようにしている。 ・スーパー・100均ショップへの買い物、散髪パーマの支援も行っている。	ケアセンターの敷地内は紫陽花やモクセイ・ふきのとうをはじめ樹木や植物の開花が楽しめ、入居者の散歩コースに活用されている。地域資源の公園や神社での桜・つつじ見学、スーパーや理・美容店の利用などの外出支援の様子は、広報誌『ポッポ』からも確認された。家族と外食や温泉利用を楽しまれる方もあり、更に家族の参加・協力を繋がるよう広報誌の中にイベントや外出行事の案内を記している。業務日誌の中には外出・泊の記入欄を設け、職員の共有や個別支援の充実に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・基本的にはお金はお持ち頂いていないが、ご本人の能力によってお金を使える能力のある方には、買い物、散髪など自分で支払っていただ供養支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・書くことが可能な方には、適宜手紙や、はがきなど本人希望時に支援している。 ・毎日息子様と電話で会話される方には職員で電話番号を回したり、椅子の準備をするなど支援		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・季節感を感じる飾り付けや、習字、貼り絵の展示を行っている。又季節の花を利用者に生けてもらって玄関、リビングに飾ったり、昔の思い出の写真や、現在の行事の写真などを展示するコーナーを設けている。 ・不快な音や光がないように配慮し、廊下やリビングは調節できる照明ブラケットを設置している。 	<p>玄関入口には入居者の家族によって制作された、ホーム名が入った竹灯籠や、季節を先取りした花かごなどが温かな雰囲気です。ホームの日常を紹介するために昨年夏にオープンした『陣内写真会』や、習字などの作品の掲示は、入居者自身の励みや来訪者にとっても楽しみとなっている。日に三回行う温・湿度測定は日誌に残し、健康管理や過ごしやすい空間に活かしている。基本方針の一つでもある「自分や家族が受けたいサービスの提供」の精神をもって、ホームの環境整備に取り組んでいる。</p>	<p>ホーム内は入居者の過ごしやすい空間が作られており、今後も定期的な掲示物や物品の整理に努めることで、引き続き居心地のよい共用空間とされることに期待したい。</p>
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングにはソファを設置して、入居者同士の憩いの場を提供している。開設して1年経過しているので自分の落ち着ける場所はそれぞれ確保しておられる。 ・入居者が誰とでも交流できるよう食事の席替えを月1回実施している。 	/	/
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時にご家族と相談し使い慣れたものや、気に入っているもの(タンス、椅子、人形、枕、布団、バッグ、若いころの写真)を持参していただき、個性のある居室作の支援に務めている。 	<p>十分な広さの居室はクロゼットや洗面台が設けられ、食後ゆっくり自分のペースで歯磨きをされる入居者の姿があった。家族の協力により寝具や日用品、日めくりカレンダー(日課としてめくられる為、入り口に掲げてある)などの使い慣れたものや思い出の品が持ち込まれている。居室は職員によって整頓や日々の掃除の他、寝具(リネン)交換表をホールに掲示することで確実な寝具管理に繋げ、気持ちよく就寝できるように努めている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・建物内は段差を解消し、居室、トイレ、浴室などのドアは引き戸となっている。 ・要所に手すりを設置し、トイレ、浴室などにもわかりやすいように場所を明記している。 	/	/